

洪水・土砂災害 ハザードマップ

想定最大規模の降雨について

河川の洪水対策は、これまでは「河川整備の目標とする降雨」を前提としていましたが、近年の風水害を受け、堤防などの施設では防ぎきれない大洪水は必ず発生するものという考えのもと、新たに「想定される最大規模の降雨」が設定されました。

このハザードマップでは中央市に影響のある各河川の想定される最大規模の降雨（P6「想定シナリオ」参照）により想定される浸水想定区域及び最大浸水深を重ね合わせて示しています。

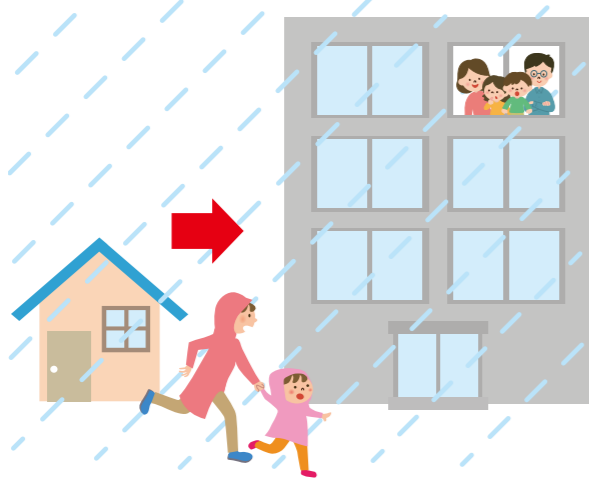
想定最大規模の降雨に対する避難について

洪水、土砂災害時の避難方法は**原則、その危険性のない場所へ避難する立ち退き避難（水平避難）**です。浸水が想定される区域、土砂災害のおそれがある区域にお住まいの方は危険性がない市指定の避難所に避難してください。

ただし、道路の冠水や雨が強く降っている状況で、移動することにより命の危険があると判断する場合は**近隣の安全な場所（頑強で高い建物や土砂災害のおそれのない標高の高い場所）^{※1}や屋内での安全の確保^{※2}**を検討してください。過去の災害では避難途中で災害に巻き込まれ犠牲になられた方もいます。

災害時には、**自らの判断において避難行動を実施していただくことが原則**です。お住まいの地域や自宅、学校、職場付近にどのような災害リスクがあるのかを把握しておくことが正しい避難行動につながります。

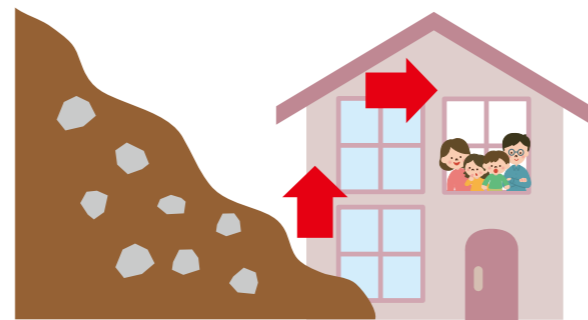
※1 近隣の安全な場所



大雨や強風などにより、長距離を移動することがかえって危険になってしまうと判断する場合には、「近隣の安全な場所」へ避難することも選択肢となります。

P17の逃げ時チャートで
自宅等の安全を確認しましょう。

※2 屋内安全確保



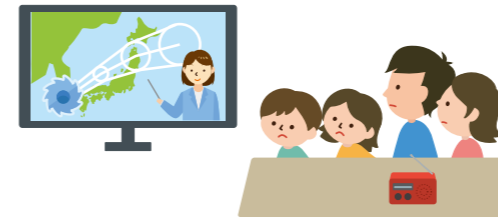
近隣の安全な場所への避難も難しいと判断する場合には、最低限の避難行動として、その時点での建物内において、安全な部屋や屋上等へ移動し、安全を確保する「屋内安全確保」が必要になります。具体的には、想定されている浸水深よりも高い場所や、山から離れた2階以上の部屋などです。

ただし、迫っている災害によっては建物の強度や高さの観点から安全を確保できない場合があること、浸水が長時間継続した場合、上下水道、電気、ガス等のライフラインの機能が停止する恐れがあり、取り残される危険性があることに留意しなくてはなりません。

円滑な避難をするために

台風などの風水害やそれに伴う土砂災害はあらかじめ予測のできる災害です。災害から命を守るために必要な情報・行動を事前に確認しておきましょう。

かなり大型の台風みたいだ。
うちは川が近だから心配だな。



台風へ備えて、
事前にやるべきことを
確認しておこう。



このままじゃ、
台風が直撃だな、
避難所への避難も
考えなくてはな。



「避難準備・高齢者等避難開始」が
発令された。(P9参照)
まだ、雨は強く降ってないし、
うちはおばあちゃんもいるし、
いまのうちに
避難を開始しよう。



無事、避難できてよかった。
市内では、川のはん濫や土砂災害が
発生しているみたいだな。



台風発生

台風接近

台風直撃

行動のポイント

- テレビ等で天気予報を確認
- インターネットで気象情報を収集
- ハザードマップで自宅等の災害リスクや、避難所、避難経路を確認
- 防災グッズや家族の必要な物を準備（不足があれば買い出しへ）
- 家族全員の今後の予定を確認（遠出する予定がある場合はキャンセルも検討）

- 非常持ち出し袋の準備
- 自宅の浸水しそうな所には土のうを設置
- 家の周りの側溝の清掃
- 家の周りにある風で飛ばされそうなものは片付ける
- 1階が浸水するおそれがある場合は家財を2階に上げる
- 携帯電話の充電

- テレビ、インターネットで（P27参照）河川の水位情報や気象情報に注意
- 市からの避難情報に注意
- 浸水や土砂災害が想定されない場所の避難所に避難を開始

- 避難所についてからも、ラジオや携帯電話から情報収集